



申10号 現場第一の姿勢で組合員・社員の努力に報い、モチベーションと生活の維持・向上の実現を求める年末手当に関する緊急再申し入れ

その3

中央本部に寄せられた

8728 件の声をぶつける！

他にも多くの声を訴えました！
交渉議事録もぜひご覧ください！

乗務員職場：相互運用を始めとする業務量の増加といった背後要因から社員の苦労は増す一方／駅業務やユニット(委員会)活動に取り組むなど生産性向上のために努力をしても賃金に反映されていない／乗務の他にユニット活動で超勤がかさむ／会社施策を本気で担い、ワンマン化や退職者等これまで2～3人でやってきた仕事を1人でこなしている職場現実を会社は真摯に受け止めるべきだ

検修職場：生産性向上といろいろな場面で言われるが、そもそもパソコンが遅い等、交換すれば簡単に生産性が上がる場所にも対応しない／現場の環境を全く知らない人がいろいろ言っている、自分がやってみると言いたい／会社施策により労働密度が上がっている

医療職場：経営者と労働者の報酬に大きな乖離がある／現場の現状をトップは確認すべきだ！

企画部門：一人5役と言われ仕事をしてきた／仕事が忙しく他のことを考える時間がない／収入を増やしたければ企画業務を人一倍担い、社員間競争に打ち勝つと言わんばかりだ／業務の融合などの施策で社員の負担が増えているところで、社員が会社を辞めていく原因ともなっていく。今回の結果が会社の財産は社員であると思っていないと感じられる



工務職場：要員が減少している中、1人で何役もこなしている。夜間作業前の大切な仮眠時間も超勤せざるを得ない現状で、最悪仮眠を取らずに夜間作業している実態で休む暇もなく働いている。その結果がこれ？
／私たちは機械じゃない／社員全員が組織再編に挑戦し、これまで通り超勤もやりながら必死に回している！



営業職場：旅客が戻ってきているし、夏季輸送も指定席誘導するほど大変だった／人は減るばかりで仕事は減らない。一人ひとりの仕事量は明らかに増えている／施策によって少ない要員で業務を回し、窓口閉鎖というサービス低下施策にお客さまから苦情を受けながら収入を支えてきた／本来業務以外に様々な企画運営イベント等の業務で頑張ってきたが何一つ報われない／業務が輻輳、煩雑化している中、見習いや教育もままならず、誤取扱いが発生してもやむなしとなっている

管理者：決算の内容も良く、これだけ頑張っているのにこの回答…／どこの職場も要員がないため、社員が疲弊している／現場で企画業務を行うと会社は言っているが超勤でやらざるを得ない／勤務が逼迫する中、みんな頑張って運休等出さずにやってきた。会社の誠意を見せて欲しい！

「この声を受け止める」と言いつつも、納得する声が相当数あるという認識を示し、再考せず！



会社

エルダー：会社回答を聞いたときは本当に驚いたしがつかりした。この会社も来るところまで来たか。赤字であっても、業績が計画と届かないと言っても、社員の頑張りにも最大限応えるのは今なのではないか。儲けに走る会社の姿勢は分かるが、働く者に目を向ける姿勢は今はないのか！

